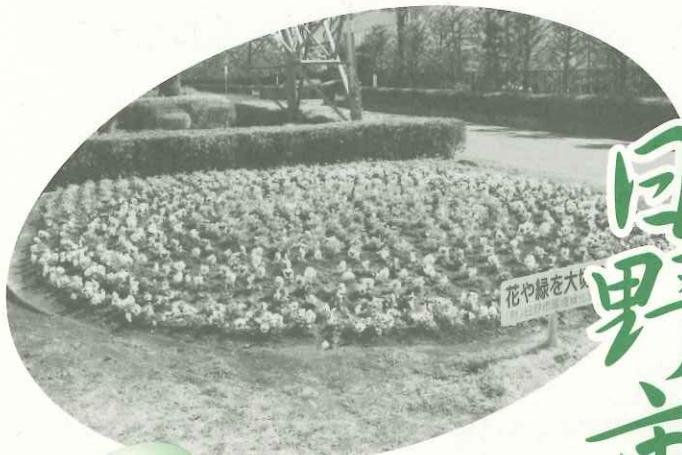


# 緑のまち

第29号 平成 15 年 10 月 30 日

発行 財団法人 **日野市環境緑化協会**

〒190-0016 東京都日野市神明2-13-1  
電話 042(585)4740



春

ハボタン・ノースポール・パンジー



夏

サルビア・日々草・コリウス・ジニア・ペチュニア・その他

日野市の四季を...



秋

菊



冬

パンジー・フロックス・ムルチューレ・その他

当協会では、公園や公共施設の花壇に植え付ける花苗を、昨年度より本格的に栽培に取り組み始めました。年間を通じて花苗を栽培しているわけですが、今年のように天候が不順で思うような日照が得られないため、大変苦労しました。しかし、努力のかいあって、なんとか立派に育成させることが出来、花壇に植え付けてきました。これからも努力してきれいな花苗を育て、市民の一人一人の心に、すばらしい花の便りを届けたいと、協会職員一同取り組んで行く所存であります。

# 平成14年度 事業報告・収支決算

## I. 緑化推進に関する啓発普及事業

1. 春・秋の緑化月間
  - ①山野草盆栽展(127点/587名入場)
  - ②緑のリサイクル(650点/300名参加)
  - ③菊花コンテスト(363点/308名参加)
  - ④緑の写真展等(94点/26名参加)
2. 会報「緑のまち」発行(第28号)
3. 「緑のまち」作文集の作成(600部)
4. 緑化講習会開催(6回開催/246名参加)
5. ひのの春を楽しむ会開催(1500名参加)

## II. 緑化推進に関する事業活動

1. 公園・公共施設等への植付け用花卉の栽培および植付け(57,563株)
2. 花の里親・里子運動の実施(里親118名/種子袋1,629袋)
3. 菊花栽培事業(20,091本)
4. レンゲ畑の再現事業(23名参加)
5. サクラ維持管理事業(維持管理部門の立ち上げ)

## III. 緑化推進に関する調査研究

里山保全に対する調査研究

## IV. 受託事業

公園清掃及び管理事業  
105の公園を実施(愛護会67ヶ所/直営38ヶ所)

収支決算			
収入の部		支出の部	
科 目	決算額(円)	科 目	決算額(円)
基本財産運用収入	8,084	普及啓発費	1,508,308
補助金等収入	30,540,230	事業活動費	17,028,488
受託事業収入	16,121,458	調査研究費	42,648
寄付金収入	1,422,946	受託事業費	16,118,677
雑収入	703,428	管理費	13,740,982
前期繰越	1,709,787	予備費	0
収入合計	50,505,933	支出合計	48,396,455
		次期繰越	2,109,478

\*サクラ維持管理事業については、特別会計として8ページに記載してあります。

# 平成15年度 事業計画・収支予算

## I. 緑化推進に関する啓発普及事業

1. 春・秋の緑化月間
  - ①山野草盆栽展
  - ②緑のリサイクル
  - ③菊花コンテスト
  - ④緑の写真展等
2. 会報「緑のまち」発行(第29号)
3. 「緑のまち」作文集の作成
4. 緑化講習会開催
5. ひのの春を楽しむ会開催

## II. 緑化推進に関する事業活動

1. 公園・公共施設等への植付け用花卉の栽培および植付け
2. 花の里親・里子運動の実施
3. 菊花栽培事業
4. レンゲ畑の再現事業
5. コスモスアベニュー事業実施(協賛)
6. サクラ維持管理事業
7. 腐葉土・肥料の販売

## III. 緑化推進に関する調査研究

日野市における緑被率の推移と分析

## IV. 受託事業

公園清掃及び管理事業  
120の公園を実施

収支予算			
収入の部		支出の部	
科 目	予算額(円)	科 目	予算額(円)
基本財産運用収入	30,000	普及啓発費	1,941,000
補助金等収入	399,000	事業活動費	15,200,000
受託事業収入	32,726,000	調査研究費	30,000
寄付金収入	16,538,000	受託事業費	16,538,000
雑収入	1,141,000	管理費	18,021,000
前期繰越	6,000	予備費	110,000
収入合計	1,000,000	支出合計	51,840,000
	51,840,000		

# 市の花「きく」と市の木「かし」のお話

今年には市政施行40周年の記念すべき年であります。

実は市の花「きく」と市の木「かし」については、市政施行10周年の記念として市民の心のシンボルにしようと募集して決定されました。

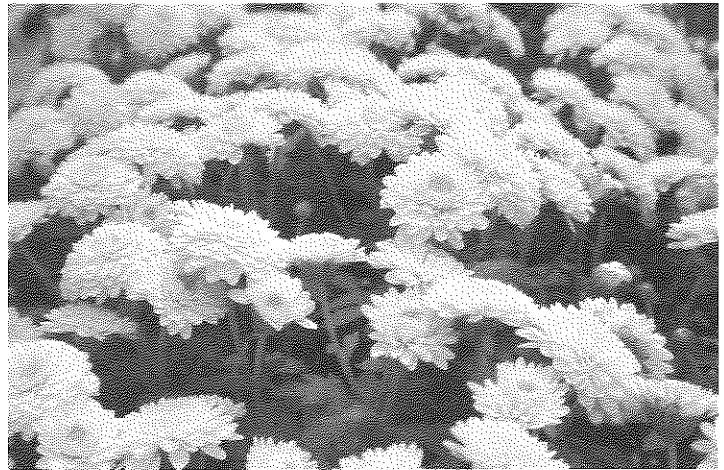
失われつつある多摩丘陵の緑、少なくなりつつある武蔵野のおもかげ、こんな現状から自然を回復するため、市では「みどりと清流」をとりもどそうというキャンペーンを展開し、自然保護のための諸施策を進めています。

その中で、私たちの生活にうるおいを与え、自然に親しむ市民のシンボルにしようと市の花「きく」と市の木「かし」がそれぞれ決まりました。

それでは、当時の選定委員が選んだ理由を紹介しましょう。

## \*きく キク科/多年性植物

- \*きわめて古くから観賞用に栽培され、近年特に「ポットマム」と呼ばれる園芸品種が盛んに温室栽培されている。
- \*高潔な美しさが君子に似ているといわれ、梅・竹・蘭とともに四君子の一つに数えられている。
- \*種類が多く、自然のままの「のぎく」の可憐さは人の心をひきつける。
- \*一般的な花として市民に親しまれていると同時に、日本の代表的な花といえる。



## \*かし ブナ科/常緑高木



- \*生態的に最も古い木であり、常にあおあおとした葉をつけている。
- \*果実は「どんぐり」として、こどもに親しまれている。
- \*公害に強く、寿命が長いだけでなく、防風・防火に役立つ。
- \*成長は遅いが安定している木として、着実に発展する日野市を象徴している。

このようにして決められた、市の花・市の木は「みどりと清流をとりもどそう」のキャンペーンにもあるように、市内の緑化促進と保存に役立てるよう、協会としても市の花「きく」の苗を、市内の公・私保育園、幼稚園、小・中学校、老人クラブ、市民に15,541本配布いたしました。

秋の菊花展には、多くの方々より大切に育てた作品が出品され、見事な出来栄に多くの方々を楽しませております。また、サクラの植樹・育成にも力を入れて取り組んでおります。



# 秋の緑化月間行事

●期間 平成15年10月～11月

## 菊花展

今年も菊花展の時期がきました。協会では、市民配布したポットマム・スプレー菊を展示いたします。また、市で作った大菊・懸崖のほか、珍しい菊も展示されます。菊薫る秋を満喫できる「菊花展」に、お誘い合わせの上お出かけください。

### ●配布苗菊花コンテスト

10月30日(木)～11月7日(金) 市民プラザ(市庁舎前)

小学校の部・老人クラブの部・市民一般の部に分け、それぞれ丹精込めた作品を展示します。小さな苗が、皆さんの努力でりっぱに育ちました。

### ●表彰式

11月7日(金) 午後2:00～ 市民プラザ(市庁舎前)

コンテスト参加作品のうち、日野市長賞・協会理事長賞等38点を表彰します。

### ●古典菊・大菊の展示

10月27日(月)～11月21日(金) 市民ホール(市役所1階)

古典菊の肥後菊・嵯峨菊・江戸菊や、大菊など約200点を展示します。

### ●菊友会菊花展

10月30日(木)～11月7日(金) 市民プラザ(市庁舎前)

福助・達磨・盆養・切り花など、150点を展示します。

## 緑化協会事務所で、腐葉土・乾燥肥料を販売

### ●腐葉土

公園の落葉(ナラ・クヌギ・ケヤキ等)に米ぬかを加え、切り返しをしながら、2年間蓄積し、叩き・ふるったものです。

### ●乾燥肥料

油粕・魚粉・米ぬかを入れ、発酵させながら切り返し、夏は約2ヶ月、冬は約3ヶ月かけて作ったものです。(暖効性肥料)

どちらも、菊・草花・野菜等の栽培には最適です。ぜひ、ご利用ください。

\*腐葉土(約4ℓ)…100円 \*乾燥肥料(400g)…100円 \*固形肥料…20円

\*お徳用腐葉土(約20ℓ)…400円と(約44ℓ)…800円もあります。



緑化協会では、年間事業として次のような緑化推進に関する講習会や展示会を実施しています。

## ●啓発普及事業

### ●春の緑化月間

- (1) 山野草盆栽展(4月下旬)…趣味の作品を持ち寄って行う展示会です。
- (2) 緑のリサイクル(5月下旬)…市民より提供していただいた植物をリサイクルする事業です。
- (3) レンゲ畑の観察会(4月中旬)…昔の日野の懐かしい農村風景を再現して、観察会を行います。

### ●緑の募金・サクラ維持管理募金(4月～翌年3月)

多くの皆様より協力していただき、心より厚く御礼申し上げます。

### ●緑化講習会の開催

- (1) 家庭果樹の健康管理講習会(5月下旬)…樹木医による病虫害の駆除方法について。
- (2) 庭木の手入れ講習会(10月上旬)…基本的な庭木の剪定方法について。
- (3) 稲わら・竹細工講習会(12月上旬)…身近な材料を使って作品を作ってみる。
- (4) 正月飾り・松竹梅の寄せ植え講習会(12月上旬)…寄せ植えの基本を学ぶ。
- (5) 春の草花の管理講習会(2月中旬)…草花の土の管理方法など。
- (6) ガーデニング講習会(3月下旬)…色々な花を使ってガーデニング作りを学ぶ。

### ●コスモスアベニュー事業(協賛)(6月～9月)

種まきから開花までの間にいろいろな体験をする。

### ●子ども昆虫教室(7月下旬)

身近なところにいる昆虫について、専門の先生より学ぶ。

### ●秋の緑化月間

- (1) 菊花展(菊花コンテスト)(10月下旬～11月上旬)  
市民・小学校・老人クラブ等の皆さんの作品のコンテストです。
- (2) 緑の写真展(12月中旬)…皆さんが日野の緑、我が家の緑を写した作品の展示会です。

### ●日野の春を楽しむ会(3月下旬)

市内のサクラの開花に伴うイベントを行う。

## ●事業活動(花壇管理・菊花栽培等)

### ●花の里親・里子運動の実施(4月～翌年3月)

市民の皆様より提供していただいた「花の種」を希望者にわたる運動です。

### ●公園・公共施設等の花卉植付け(4月～翌年3月)

年間を通して、公園等の花壇の花の栽培から植付けまでを行っています。

### ●菊花栽培事業(4月～翌年3月)…市の花「菊」の栽培

- (1) カサ菊の苗配布(小・中学校・幼稚園・保育園)(6月下旬)
- (2) ポットマム・スプレー菊の苗配布(市民、小・中学校、幼稚園、保育園、老人クラブ)(8月～9月)
- (3) 菊講習会の開催(6月～8月)
  - (イ) 菊のさし芽講習会(6月中旬)…菊のさし芽の仕方について学ぶ。
  - (ロ) 大菊(福助)の育て方講習会(7月中旬)…菊の育て方の基本を学ぶ。
  - (ハ) ポットマム・スプレー菊の育て方講習会(8月上旬)…菊の育て方の基本を学ぶ。

※各事業の詳細については、緑化協会におたずねください。

# 小学生からの提案

今回募集した作文集「緑のまち」に、市内の小学校全校（19校）より、一四三五名の児童から応募がありました。学年別では四年生・三三六名、五年生・四九七名、六年生・六一二名。その中から入選作一四九編が選ばれました。ここに優秀賞四編を紹介いたします。

応募者全員が「緑について」関心を持ち、どのようにしたら緑を残せるかを考えながら、一生懸命書いてくれました。

なお、入選作一四九編については、別に作文集として発行いたします。

## 鳥の観察記

南平小学校六年二組

飯塚 直人

「ツツピー、ツツピー、チーチュルチルチルチルチユイ、ホーホケキョ、ヒーヨ。」

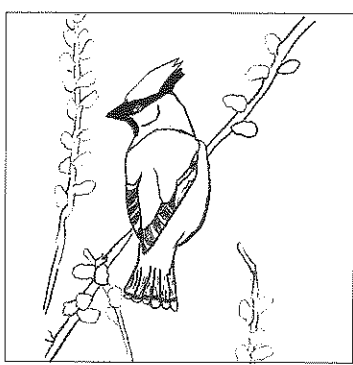
朝起きると鳥たちがさかんに鳴いている。さのう庭に置いたパンくずとみかんジュースを食べにきたんだと僕は思った。

僕は、五年生の一月の終りから総合学習で鳥のことにについて調べた。その日から、僕は自分の家に鳥をよせるために工夫した。毎朝家族で庭にきた鳥を見るのが楽しみなようになってきた。鳥のいろんな行動が家族を楽しませた。周りを

ヒレンジャクだった。初めて見た。嬉しかった。でも、その後は一度も来ない。

三月のある夕方、草もちのためのヨモギ摘みに、みはらし公園から家に向けて山の斜面をお母さんとお兄ちゃんと歩いた。その時、木の上にヒレンジャクがいた。よく見ると一羽だけでなく群れていた。僕は嬉しくて嬉しくてたまらなかった。ヒレンジャクが立ち去ったあとその場所に行った。そこにはヤドリギの木があった。ヒレンジャクはヤドリギの実を食べていた。木の下には種が沢山ころがっていた。その日から僕は鳥の会話を聞くのが楽しみだった。「これはおいしい。」「こっちはあまり口に合わないな。」と言っている気がした。その度にお母さんにエサを注文をした。総合学習は終わったが鳥を楽しむ日々は続いた。

春になって、エサをあげなくなった。なぜって山に緑が出て自力で食べ物さがせるからだ。



そのことが鳥たちにも大切な事だから。でも少しさみしくなった。

僕は、オオルリやブッポウソウの声が聞きたい。緑がもつともっと増えれば、いろんな種類の鳥がやって来る。日野市がそういう市になるように、これからも鳥や緑に関心を持ち続け、僕のできることをしていきたい。

## 未来へ自然を残そう

日野第小学校五年組

木村 圭花

わたしが前に住んでいた町は、日野の中でも特に自然が多いところでした。家の周りには、山や田んぼ、畑がたくさんありました。わたしは山で木登りをしたり、虫とりをしたりして遊んでいました。

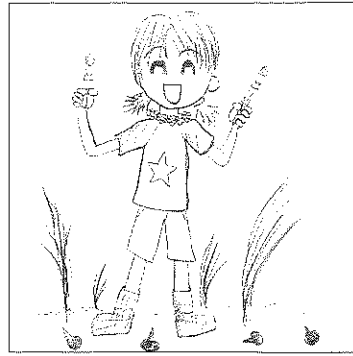
春になると、原っぱにたくさんつくしができました。そのたくさんのおいしいつくしをつんで毎年食べるのが楽しみでした。原っぱでは、シロツメ草もたくさん咲きました。シロツメ草でネットワークを作って遊ぶのも楽しかったです。田んぼでも遊びました。おたまじゃくしをとってそのおたまじゃくしを飼って全部カエルまで育てました。カエルになったら、また田んぼに返してやります。このカエル達、雨が降る前になると、打ち合わせたよ

うに皆でグワツグワツと鳴きまします。まさにカエルの合唱です。夏は用水路でザリガニをつりをしました。つったザリガニを飼って観察したこともあります。秋の晴れた日には、あちこちの田んぼで稲刈りが見られました。それが終わると、どこからともなく脱こくの音が聞こえてくるのでした。冬の朝は霜の無くなった田んぼに霜柱が光っていました。その霜柱をサクサクふむのが楽しかったです。

わたしが三年生の時、わが家は新しい家に引っ越しました。うちが建っているこの場所に、大きな道路ができることになったからです。前の家はもうありません。近所の家もみんなありません。原っぱも、さくで周りをかこんであって、もう入って遊ぶこともできません。そしてその道路によって、山や田んぼも削られてしまいます。道路ができるのとみんなが便利になります。だけどそこに緑があるともっといいと思います。大きな道路がたいいていそうであるように、中央分離帯や歩道の植えこみには、木や花が植えられることしましょう。でもそれだけではなく、なるべく周りの自然も残してほしいです。

子供はみんな自然の中で遊ぶと楽しいです。遊びながら、勉強できることもたくさんあります。体もいっぱいきたえられます。だから未来の子供達のため

に自然を残しておくべきだと思  
います。みんなで守ろうとしな  
ければ緑は守れないと思います。  
これから大人になる私たちが、  
力を合わせて日野の緑を守つて  
いこうと思います。



## おじいちゃん 大切な自然

日野第一小学校四年組  
西郷永希子

わたしのおじいちゃんには、  
富士山にもう一つの家がありま  
す。その家の庭は、大きな赤松  
やいろいろな種類の本や高山植  
物などで、いっぱいです。おじ  
いちゃんは、山に來ると、家に  
入るひまがありません。庭の本  
や植物などの手入れをもくもく  
としています。

よく山で、家を建てる時に、  
木をたくさん切ってしまった後で、  
しばふや好きな木を植え  
たりする人がいます。でも、山  
の自然かんきょうにあわないと、

かれてしまったり、なかなか育  
ちません。おじいちゃんの手入  
れは、自然にはえている植物や  
木を大切に、一本一本の本  
や草花が、それぞれ育ちやすい  
ようにしてあげます。おたがい  
に、けんかをしないように、場  
所をつくってあげたり、からま  
っている枝をほいてあげたり、  
さけたみきをほうたいでまいて  
なおしてしまいます。ですから、  
ふつうのガーデニングとはちが  
って、どこを手入れたのか、  
わかりません。自然を育ちやす  
くしてあげる手入れだと思いま  
す。小鳥や虫がよく庭にきます。  
でも、きつと、森のつづきだと  
思っているのかもしれない。

おじいちゃんの庭を散歩する  
と、きれいな花をみつれたり、  
変わったちようをみつれたり、  
いろいろな発見がありドキドキ  
します。庭にわからない花や木  
があつたら、おじいちゃんに聞  
いたり、図鑑などで調べたりし  
ます。小鳥などが、水浴びでき  
るように作った池には、いろい  
ろな小鳥が、それぞれ朝夕決ま  
った時間に来ます。仲良く順番  
に水浴びしたり、わりこむ小鳥  
がいたり、見ていて、うれしく  
なります。

おじいちゃんには、困ってい  
る事があります。それは、大切  
にしている植物を、とつていつ  
てしまう人がいる事です。自然  
の草花や木は、その自然環境を  
好んで、生きてきます。日かげ

の好きなもの、固い土の好きな  
ものなど植物によって好みがち  
がいます。人間の手によって、  
ちがう所にいくと、かれてしま  
うこともあります。だから、い  
くらきれいでほしいからと、花  
をとったり、枝を折ったり、抜  
いていってしまうと、なくなつ  
てしまう植物があります。これ  
は、おじいちゃんの庭だけでは  
なくて、自然の山々や公園でも  
おきている事だそうです。そう  
してなくなってしまう種類もあ  
るそうです。だから、私は大好  
きな自然を大切にしたいです。



## ぼくの町

日野第一小学校四年組

大場 祐司

ぼくの家で借りていた駐車場  
に、家が建つことになった。そ  
のとおりにある栗林も切られて、  
やはりそこに家が建つことにな  
った。花ふんの季節になると、

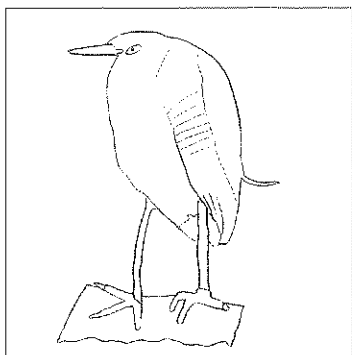
栗林の花ふんが家の車にいつ  
ぱいついて白くなった。四月  
になると、ウグイスが飛んで  
きて、「ホーホケキョ。」と  
鳴いていた。いつもどこで鳴  
いているだろうと探したが、  
その姿を見たことがなかった。  
七月になると、セミが栗の  
木にとまっていた。「ジージ  
ージージー。」と、うるさか  
った。蚊にさされながら、セ  
ミとりをしたこともあった。  
秋になると、栗がたくさん落  
ちていた。「パカッ」とわれ  
ていたイガの中からつやつや  
とした栗がみえた。そんな栗  
林が今年の秋にはなくなる。  
どんな景色になつてしまうの  
だろう。ぼくのまわりの景色  
が変わっていくのが、なんと  
なくさみしいような悲しいよ  
うな気がした。

通学路の途中には、用水路  
がある。用水路には、白さが  
が来たり、カモが泳いでいた  
りする。大きな鯉もたくさん  
泳いでいる。こんなに生き物  
が集まってくるなんて、なぜ  
だろう。空きカンや、ビニー  
ル袋のゴミなどですごくよく  
れているのに。よく見てみたら、  
川の底では、水草を、鳥たち  
がつついていた。きつとそこ  
にはエサがあるのだろう。こ  
んなにきたない水なのに、か  
わいそうだなと思った。この  
川で生きている鳥や魚たちの  
ために、もつといい環境をつ

くつてあげたいと思った。鳥や  
魚がいつまでも生活していける  
ようにしたいと思う。水草が  
れないようにしてあげたい。

ぼくは、家のまわりを見て、  
緑がたくさん残っていると  
思っていた。でも、家が建つたり道路が  
できたりして、まわりの風景が  
変わっていることにも気づいた。  
変わっていく中で、ぼくは少  
しも木や草がなくならないで  
ほしいと思う。ぼくの家の玄  
関には、鉢植えがある。水をあ  
げたり、肥料をやったり、時  
には、虫とかく聞いたりする。め  
んどくさくなつてしまいが、さ  
ぼるとすぐに葉っぱがしおれて  
くる。育てていくつて大変なこ  
とだ。だから、大切にしてい  
かなくてはならない。はち植えの  
花や葉はぼくたちに元氣を与え  
てくれるからだ。

ぼくは鉢植えを大切にすると  
いう小さなことから、鳥や  
魚や虫やぼくたちが、安心して  
生きて行ける場所を守っていけ  
ると思う。





# 「緑の募金」結果のお知らせ

(強化月間を春・秋の2回にいたしました)

自治会・老人クラブ・各事務所等、多くの皆様の緑化に対する深いご理解とご協力により、今年も多くの募金が集まりました。

今年より、今まで春の強化月間として、4月・5月に募集を行ってまいりましたが、年度替わりとか、役員さんの交代時期とかで取り組みにもバラつきが出て、できればもう少し長くお願いしたいとの要請が多数寄せられておりましたので、秋の強化月間として、9月・10月にも募集を行う事といたしました。その結果、春の時期に出来なかつた方々より秋の時期に対応していただき、募金総額も9月末現在で昨年を上回る250万円台になりました。心より厚くお礼申し上げます。

この募金は、東京都緑化推進委員会へ納入し、森林整備事業や緑化の国際協力事業等に使われるほか、当協会にも還元され、花壇の植付けなど、市内の緑化推進に役立てさせていただきます。



## 内訳

自治会	1,125,727円
市立小・中学校	32,904円
団体・事業所	900,907円
市役所機関	137,379円
老人クラブ	116,149円
私立幼稚園・保育園	48,068円
一般・街頭募金	143,451円

# サクラ便り

皆様からの募金により、皆様の手で植樹していただいた30本のオオシマザクラは、今年で4年目を迎えました。昨年発足したサクラ維持管理実行委員会も、この1年間毎月活動を行い、活発な意見交換や様々な研修に取り組んでおります。

今後は行事等、地元と一体となつてできる新たな事業を考えております。ぜひ地域のシンボルとなるように、こちらからもサクラを大切に見守っていきましょう。



## 平成14年度サクラ維持管理事業会計決算報告

(平成14年4月1日～平成15年3月31日)

収入の部		支出の部	
科目	決算額(円)	科目	決算額(円)
寄付金収入	15,607	事業活動費	0
雑収入	16	管理費	4,000
繰越金収入	533,583	予備費	0
収入合計	549,206	支出合計	4,000
		次期繰越	545,206

## 平成15年度サクラ維持管理事業会計予算書

(平成15年4月1日～平成16年3月31日)

収入の部		支出の部	
科目	決算額(円)	科目	決算額(円)
寄付金収入	5,000	事業活動費	125,000
雑収入	1,000	管理費	18,000
繰越金収入	539,000	予備費	50,000
収入合計	545,000	支出合計	193,000
		次期繰越	352,000

## 編集のあとに

当協会も発足15年となり、活動も多方面にわたり実施するようになってまいりました。市政施行40周年の記念すべき年に、第29号を発行することができましたが、会報の内容についても、そろそろ変化が必要と感じております。皆様よりご希望等ございましたらご一報ください。できれば市民の皆様ボランティアとして編集の一員となつて活動いただければ、と考えております。よろしくご協力の程、お願い申し上げます。